

2016年度 学校評価報告書 所属名 ( 京都聖母学院小学校 )

学校目標	豊かな学力と創造性を持ち誰に対しても誠実で礼儀正しく奉仕の喜びを知る子どもを育てる。
------	--

校長	澤井 広子
----	-------

重点目標	2016年度の具体的目標 1、 カトリック精神に基づく心の教育 2、 基礎学力の充実とよりレベルの高い授業 3、 しつけの行き届いた子どもを育てるマナー教育 4、 有意義な研修による教員のスキルアップ
------	--

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	
目 標		評 価 (児童12月2日実施 保護者12月9日～16日に実施)		学校関係者からの意見・要望・評価等 (3月19日実施)	
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果		
1	カトリック精神に基づく心の教育	* 1日5回の祈りで神を意識することで静かな気持ちにさせる。宗教と並行して道徳の授業を進めカトリックの精神を学ぶとともに人間の生き方についても学んでいく。  * 誕生学や宿舎の体験で命の大切さを学んだり、ルワンダの実情を知り募金をしたり、支援の活動を展開していくことで奉仕の素晴らしさを知らせる。またお米一握り運動でお米を集めて釜が崎の人々を支援する。  * お世話になっている近所の方々に感謝を込めて学年ごとに周辺の掃除をする。  * 宗教行事に神父様に来ていただきより充実した内容にする。  * 友達や周りの人に思いやりをもって接するよう、学級指導や機会があるごとに丁寧に指導する	* 宗教担当の教員と担任が協力して月に1回の道徳授業を実施できるように努めた。道徳の公開授業も実施し、よりレベルの高い授業を目指すことができた。 * 保護者アンケートで「子どもたちは祈りや神様の言葉聞くことでカトリックについて身近に感じることができている」の項目で約95パーセントの保護者が「しっかりできている」「どちらかと言えばできている」と答えている。  * ガテラさん真美さんは来校されて支援のための準備を着々と進めることができた。2年生には誕生学の出張授業を行い、命について考えさせた。  * 感謝掃除の運動の途中近所の方から温かい声かけがあった。  * 例年行われている4～6年の学年末修養会をミサの形にした。また、死者の月の祈りの集いに神父様をお招きして厳粛な雰囲気の中で祈りができた。  * 保護者アンケートではほぼ100パーセントの保護者が「子どもが学校生活を楽しんでいる」と言う項目に対してしっかりできている・どちらかと言えばできていると答えている。 * 児童アンケートにおいても90パーセント以上の子どもが「学校に行くのが楽しいと思う日」がたくさんある・あると答えている。	去年の各学年の授業記録を元に本校独自のカリキュラムを考えているが、次年度はまとめる方向に持って行きたい。  ルワンダレスキュー隊・宗教委員会のお米一握り運動をもっと多くの人に知らせる  今年度、神父様に来ていただいたのは3回だけだったがもっと多くの宗教行事に来ていただきたい  わずかな数ではあるが学校に行くのが楽しいと思う日がある・ない・ない・ないと答えている子が多いことを重く受け止め、一層の授業の充実を計るとともに子どもの様子に注意し、教員から声をかけるなど困っていることがあれば気軽に相談できるよう、配慮する。	以下の観点から評価を実施した。  ①今年度の学校評価の内容について。 ②学級・学年・学校の取り組みは保護者が満足するものであったかどうか。  ①今年度の学校評価の内容について。 概ね保護者は満足しているようだ。 保護者が保護者を非難するコメントが多い。特に運動会のマナーについての意見が多い。学校側からももっときつく注意してもよいのでは。
2	基礎学力の充実とよりレベルの高い授業	* アクティブラーニングを授業に取り入れる。自分の考えをしっかりと持ち、グループで話し合うことで考えを深めたりまとめたりする。また、自分の考えを資料などを使って発表し、聴いている人を納得させるプレゼン能力を身につける。  * 学年に応じた計算力をつけ、算数能力を伸ばすことで算数検定の合格率を上げ、受験に対応できる応用力を身につける  * 漢字能力を伸ばし全校漢字検定合格率アップを目指す。  * 作文能力を伸ばす。  * 朝の1分間スピーチで考えをまとめて話す力をつける。  * さまざまな実験を取り入れたり、企業の出張授業を実施することで理科の興味関心を高める。  * 読書をすることで本に関心を持たせ、読書量を増やす。  * 基本的な学力を身につけるために補習を実施し理解を深める。  * クロームブックやタブレットなどを授業に取り入れ、効果的に活用する  * 自分の考えを論理的に話したり書いたりする能力を高めるとともに、考えを発表し相手を納得させるプレゼン能力を高める。  * 国際コース・総合コースともに英語能力を伸ばす。  * 子どもたちが自ら活躍して生き生きと授業に参加できるよう、教材研究を進め楽しい授業を心がける。	* 授業だけではなく、係り活動や課外クラブなどでもどうすればよりよいものになるかを自主的に話し合い、活動をすすめることができるようになった。  * 副担任が担当して、各学年に応じた計算テストを毎日継続し事後指導も充実させてことにより計算力がアップした。それに伴って算数検定の合格率も上がった。  * 漢字検定の合格率が上がった。  * 日記をつけ担任に提出することによって担任とのコミュニケーションをとると共に作文能力を伸ばした。  * 各学年に応じたスピーチをすることによって自分の考えを表現する能力が伸びた。教科にも活かされ、算数研究発表などに効果が表れた。  * 出張授業等を取り入れて専門家の出張授業を取り入れることで本格的な実験を体験させることができた。  * 朝読書で1日が静かに始まり授業がスムーズにスタートできた。また、人工知能「雪まる」のおかげで図書館の貸し出し数が増えた。  * 全学年にわたって補習を実施することで基礎学力の定着を図った。  * ネット環境が改善され、NTTとの業務提携で支援員も常駐していることでICT機器を使った授業が飛躍的にやりやすくなった。  * アクティブラーニングをさらに充実させ、また、グループで話し合うことでさらに自分の考えを深めた。  * 総合の英語授業を去年度に引き続き、2つに分けて実施し、個別指導に力を入れた。また、イングリッシュチャットを充実させた。  * 「子どもたちは意欲的に学習を進めている」という項目で約95パーセントの保護者が「しっかりできている」「どちらかと言えばできている」と答えている。	子どもによって個人差があるのでみんなが自分の考えをしっかりと伝えるように指導したい。  国際クラスは総合クラスと比べてどうしても漢検合格率が低いのでより漢字練習に力を入れたい。  ICTの教員研修を何度か行ったがまだ個人差が大きい。  イングリッシュチャットにより多くの児童が参加するように内容を工夫する	カトリック的な教育がしっかり行われていることがわかる。  ②学級・学年・学校の取り組みは保護者が満足するものであったかどうか。  課外クラブが活躍している。新しい課外クラブもできているんなことに挑戦している。  子どもがしっかりとあいさつできている  広報活動に力を入れているのが良くわかる。
3	しつけの行き届いた子どもを育てるマナー教育	* 朝礼・儀式の際により厳粛な雰囲気になるように指導する。  * 身だしなみを整え、きまりを守るよう指導する。  * 登下校の際の車中のマナーなど具体的に指導する。	* 朝礼を初めとする儀式の行き届りに私語を慎むよう指導すると共に儀式中の姿勢も細かく指示することで緊張感を持って儀式にのぞめるようになった。  * 登下校時の制服の着方について教員全員で共通意識を持って指導したところ、身だしなみに気をつけるようになった。 * 保護者アンケートで「進んであいさつをしている」「身だしなみやあいさつは適切である。」の項目で約90パーセントの保護者が「しっかりできている」「どちらかと言えばできている」と答えている。  * 登校班会議で指導・話し合いをすると共に必要に応じて登校班を召集して指導した結果、子どもたちが車中での態度を向上させようとするようになった。	毎月の生活目標に対する子どもたちの認識が甘かったので毎月確認させることが大切である。  あいさつがしっかりできていない・言葉遣いが悪いと感じている保護者も多いのでより満足してもらえるよう、指導を徹底していく。  電車マナーについての苦情は減ったがなくなったわけではないので指導を続ける	③今後本校に望むこと  ホームページは充実しているが小学校と中高とに一貫性が欲しい。
4	有意義な研修による教員のスキルアップ	* 授業力の向上を目指し定期的に研究授業・公開授業を行う。  * 基礎能力の向上を目指し、年4回の教員としての基礎知識に関する研修を企画する。  * 若手教員のために授業法や教師の心得等定期的に研修を開く。  * ネイティブ教員のスキルアップを目指し、各自年1回の公開授業と事後研究会を行いお互いに学びあう。	* 学期1回の研究授業・各公開授業・公開研究会を通して各々の授業を見直し向上するべく努力した。公開授業には多くの教員が参加し、研究会にも意見が多く出され有意義な話し合いが行われた。 * 保護者アンケートでは約95パーセントの保護者が「教員は子どもたちにわかりやすく工夫した授業を行っている」の項目に対して「しっかりできている」「どちらかと言えばできている」と答えている。また児童アンケートにおいても約94パーセントの子どもが「授業がわかりやすいと思う日」の項目で「たくさんある」「ある」と答えている。  * 年4回の教員研修を実施し、学外の研修に積極的に参加することによってそれぞれの基礎能力を向上させることができた。  * 管内新任研修の実施や西日本・京都の私学連合研修の参加などを進めると共に各学年においても学年主任を中心にさまざまな面で指導し、効果を上げた。また、自由企画自由参加の研修会を開催し、多くの教員が参加した。  * ネイティブに年1回の公開授業を義務付け、授業の規律等についても説明する機会を設けた。すべてのネイティブが公開授業を行い、互いに見合うことができ授業方法について考える時間が持った。	公開授業が3学期に集中しがちなので計画的に実施する必要がある。  今年度は内容の充実した研修だったが来年度もレベルを下げないようにしたい。  管理職の新任指導が効果を上げた。来年度は新任はいないが担任が初めての教員に対して指導していく。  今年度に引き続きランチミーティングを実施し、ネイティブとのコミュニケーションを図る。	スマホ用のホームページも設定する必要がある。  内部進学率は一般から言うの高いほうだがもっと高くなるように努力して欲しい。